

事務事業マネジメントシート (21年度実績と22年度計画)

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 26 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 5 月 20 日 作成

事務事業名		循環バス試行運行事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	総務企画部	課長名	濱田 善也
	施策	4	公共交通の充実			所属課	企画財政課	担当者名	坂井 竹志
	基本事業	11	公共交通の利便性の向上			所属班	政策企画班	(内線)	1245
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	成果優先度評価結果	1
		1	2	1	11	11462		コスト削減優先度評価結果	12
終了、開始年度		☐ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始		事業期間		☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返(開始年度 年度) ☒ 期間限定複数年度 (19 ~ 22 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	市民の生活交通としての市内循環バスを試行運行する事業である。 ①バス事業者へ運行委託し、運行費用から運賃収入を差し引いた残額を市がバス事業者へ補助する。 ②試行運行期間中に実態調査・分析を行い、運行形態や運行コース・時間などについて再検討を行う。 平成13年度から老人憩いの家やユーパレス弁天などの施設の利用推進と利用利便性の向上を図るため運行していたが、合併(平成18年2月28日)により新市の運行形態について見直し検討を行うため試行運行を開始した。 平成21年度より3か年をかけて合志市地域公共交通計画に基づき、国の地域公共交通活性化・再生総合事業費補助金を受けて各種実証実験を実施することになった。
【業務の流れ】	①バス事業者と試行運行委託契約し、毎月の運行状況を確認、年度末の委託料支払い事務を行う。 ②コンサルタントとの施行期間中の調査委託契約と、調査分析の報告を受けての協議を行う。
【主な予算費目】	運行事業補助金
【意見や要望】	市民からバス停の位置、コース、時間、回数の変更について意見や要望がある。具体的には老人憩いの家の滞在時間を考慮した時刻設定、買い物や通院に適した時間やコース、庁舎間をつなぐ運行コースの設定、乗車時間の短縮など。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)		22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
市内6コースの循環バス試行運行を継続した。		4月～9月にかけては、市内6コースの循環バスの試行運転を継続する。 また、10月より環状バスの試行運行に合わせて循環バスコースを見直し、新たにコミュニティバスとして再編し運行する。	
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標		(単位)	(単位)
⇒ ア 運行回数	回	イ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)	
循環バス運行計画		⇒ ア 計画数	件
市民		⇒ イ 人口	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)	
利用者の目的に沿った運行計画案の基礎となる調査データを得る。 円滑に行動できる。		⇒ ア 運行計画ルート	コース
		⇒ イ 利用者の総数	人
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠			

運行計画とその改善による利用者の増減が指標となる。22年度はコミュニティ交通として他の交通体系と一本化を図る。

(2) 各指標・総事業費 の推移			単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込
④ 活動指標	ア	回		2261	1768	1768	1773	884	0	0
	イ									
⑤ 対象指標	ア	件		1	1	1	1	1	0	0
	イ	人								
⑥ 成果指標	ア	コース		7	6	6	6	6	0	0
	イ	人		11,501	12,996	13,000	13320	7000	0	0
投資 入 量	事業 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円	1,391						
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	12,391	9,532	10,018	9,494	5,400	0	0
	(A) 事業費計		千円	13,782	9,532	10,018	9,494	5,400	0	0
	(A)のうち指定経費		千円							
	(A)のうち時間外、特勤		千円							
	人件 費	正規職員従事人数	人	5	3	3	3	3		
		延べ業務時間	時間	536	70	70	80	35		
		(B)人件費計	千円	2,128	280	279	318	139	0	0
トータルコスト(A)+(B)			千円	15,910	9,812	10,297	9,812	5,539	0	0

総トータルコスト
全体計画
19 ~ 22 年度
2,861
48,811
51,672
14
1,348
5,365
57,037
(期間限定複数年度のみ記載)

合志市

事務事業名	循環バス試行運行事業	所属部	総務企画部	所属課	企画財政課
-------	------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部 (SEE)

*原則は21年度の後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】			
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】			
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】			
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】			
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】			
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】			
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】			
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】			

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

・循環バスの運行は利用者に定着しつつも、新たなコミュニティバスへ再編し一体的で効率的なバス網の構築が必要であると考えられる。 ・毎年利用者は増加しており、成果は向上している。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☒ 事業のやり方改善(有効性改善)

☒ 事業のやり方改善(効率性改善)

☐ 事業のやり方改善(公平性改善)

☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上	○		
	維持			
	低下			

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

合志市地域公共交通計画に基づく、他の交通手段との実証実験を踏まえて、見直しの必要がある。